

## 2019年度国公立大志願状況

河合塾

2019/2/21

国公立大の確定志願者数が20日に文部科学省から発表された。総志願者数は469,836人、志願倍率は4.68倍であった。以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

### ■志願者数は前年から約4千人増加、志願倍率は上昇

2月6日に締め切られた国公立大一般選抜の総志願者数は469,836人と前年から約4千人増加した。募集人員に対する志願倍率は前年の4.63倍から0.05ポイントアップの4.68倍となった【表1】。

【表1】国公立大志願状況

区分	日程	募集人員(A)		志願者数(B)				志願倍率(B/A)	
		18年度	19年度	18年度	19年度	前年差	前年比	18年度	19年度
国立大学	前期	64,344	64,031	195,255	194,525	-730	99.6%	3.03	3.04
	後期	14,654	14,335	134,950	135,628	+678	100.5%	9.21	9.46
	計	78,998	78,366	330,205	330,153	-52	100.0%	4.18	4.21
公立大学	前期	15,650	16,102	62,607	64,010	+1,403	102.2%	4.00	3.98
	後期	3,706	3,648	43,292	43,986	+694	101.6%	11.68	12.06
	中期	2,193	2,310	29,604	31,687	+2,083	107.0%	13.50	13.72
	計	21,549	22,060	135,503	139,683	+4,180	103.1%	6.29	6.33
国公立大学 計	前期	79,994	80,133	257,862	258,535	+673	100.3%	3.22	3.23
	後期	18,360	17,983	178,242	179,614	+1,372	100.8%	9.71	9.99
	中期	2,193	2,310	29,604	31,687	+2,083	107.0%	13.50	13.72
	計	100,547	100,426	465,708	469,836	+4,128	100.9%	4.63	4.68

※文部科学省資料より

※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学は上表には含まれない

国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は258,535人（前年比100.3%）と前年並みとなった。センター試験の受験者数が前年比98.6%と減少したことを鑑みると、国公立大は堅調な人気を示している。

【表2】は、大学所在地区別の志願状況をまとめたものである。

東北、北関東、東海、近畿、四国地区では前年並み、甲信越、九州地区では増加した。甲信越地区では、昨春公立法人化した公立諏訪東京理科大が今年から国公立大の日程で入試を実施するのに加え、長野大、長野県立大などの公立大で志願者が増加した。九州地区でも、公立大全体では前年比110.3%と高い増加率となった。公立大では隔年現象がおきやすく、九州地区では前年志願者が減少した公立大が多かったためと考える。

北陸地区では志願者が前年比96.4%と、全地区で最も高い減少率となった。国立3大学のほか、看護学部を新設する富山県立大を除く公立大でも志願者が軒並み減少した。なかでも、石川県立看護大（前年比51.8%）、敦賀市立看護大（同31.0%）では大幅に減少した。北陸地区では、前述の富山県立大のほか、公立小松大が別日程から前・中期日程での実施となるため、看護系の志願者が分散したようだ。

後期日程の志願者数も179,614人（前年比100.8%）と前年並みとなった。ただし、今春も後期日程廃止・縮小の動きがみられたため、志願倍率は9.71倍から9.99倍にアップし、2015年度入試以降、最も高い志願倍率となった。

公立大で実施される中期日程の志願者数は前年から約2千人増加した。今春は、前述の公立小松大、公立諏訪東京理科大に加え、兵庫県立大（社会情報科学）、新見公立大で中期日程を新規実施する。中期日程の出願先の選択肢が増えたことが、志願者数増加につながった。

【表2】国公立大(前期日程)地区別志願状況

地区	18年度	19年度	前年差	前年比
北海道	12,679	12,297	-382	97.0%
東北	20,761	20,776	+15	100.1%
北関東	14,189	14,249	+60	100.4%
南関東	52,610	51,502	-1,108	97.9%
甲信越	11,683	12,827	+1,144	109.8%
北陸	11,699	11,283	-416	96.4%
東海	22,830	22,619	-211	99.1%
近畿	43,057	43,531	+474	101.1%
中国	24,262	23,862	-400	98.4%
四国	10,728	10,723	-5	100.0%
九州	33,364	34,866	+1,502	104.5%

※文部科学省資料より

※北関東：茨城・栃木・群馬 南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

## ■系統別では「文・人文」「理」「農」系などで増加、医療系は減少

【表3】は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。

今春は、近年続いていた「文高理低」の基調に変化がみられた。

文系では「文・人文」「法・政治」で増加した一方、前年の人気系統である「経済・経営・商」は減少に転じた。また、理系では「理」「農」で志願者が増加した。このほか、医療系では前年比98.2%と志願者が減少した。

以下に、主な系統について確認していく。

※文中の志願者数・前年比は特に記載がない場合、前期日程を表す

### 【文・人文学系】

系統全体の志願者数は前年比109.3%と約2千人増加した。北海道大(文、教育)、名古屋大(教育)、九州大(教育)などの難関大での志願者増が、系統全体の志願者数を押し上げた。そのほか、今春コースの改組をおこなった福島大人文社会学群では志願者数が大幅に増加した。一方、新設2年目となるお茶の水女子大(生活科学一心理)では、前年比75.0%と減少率が高く、志願倍率は4.17倍から3.13倍へとダウンした。

### 【社会科学系(社会・国際、法・政治、経済・経営・商)】

志願者数は、「法・政治」で増加した一方、「経済・経営・商」では減少した。

「法・政治」では、首都大学東京(法)の志願者増(前年比137.2%)の影響が大きい。前年入試でも志願者数が増加していたが、平均点がダウンしたセンター理科を課さないため志願者が集中したようだ。

「社会・国際」では、一橋大(社会)、首都大学東京(人文社会一人間社会)などで志願者の減少が目立った。英語スピーキング試験を課すことで注目を集めた新設の東京外国語大(国際日本)の志願者数は114人(志願倍率3.26倍)となった。

前年の人気系統だった「経済・経営・商」では、敬遠された様子がみられた。国立大は前年比100.9%と前年並みだった一方、公立大では前年比94.3%と減少した。前述の横浜市立大(国際商)は、学部再編前の国際総合科学部経営科学系と比べて前年比82.1%と志願者が減少した。また、経済、経営学部から改組した兵庫県立大(国際商経一経済学・経営学)は、志願者数は前年比79.9%と減少したが、改組にともない募集人員も減少しており、志願倍率はやや上昇した。

### 【自然科学系(理、工、農)】

志願者数は、「理」「農」で増加し、「工」で減少した。

「理」では、愛媛大(理)、佐賀大(理工)の改組の影響で募集人員が増加したが、それを上回る志願者数が集まった。また、東北大、京都大、大阪大などの難関大で志願者が増加した。

「工」では、人気系統の情報系分野をみると、首都大学東京(システム一電子情報システム工)、名古屋工業大(工一情報工)、九州工業大(情報工)などでは志願者が大幅に増加した一方、京都大(工一情報)、名古屋大(工一電気電子情報工)、大阪大(工一電子情報工)といった難関大では減少が目立った。従前から人気高騰が伝えられていたことから、出願時には警戒されたようだ。

「農」では、福島大(農学群)が新設されたほか、前年志願者が大幅に減少した新潟大(農)、鳥取大(農)などで志願者数が増加した。出願要件に英語外部試験を課す東京海洋大(海洋生命科学、海洋資源環境)は、

【表3】国公立大(前期日程)学部系統別志願状況

系統	募集人員(A)		志願者数(B)				志願倍率(B/A)	
	18年度	19年度	18年度	19年度	前年差	前年比	18年度	19年度
文・人文	7,056	7,154	22,058	24,102	+2,044	109.3%	3.13	3.37
社会・国際	3,941	3,862	13,957	13,899	-58	99.6%	3.54	3.60
法・政治	4,218	4,163	13,655	13,995	+340	102.5%	3.24	3.36
経済・経営・商	8,184	8,146	28,933	28,438	-495	98.3%	3.54	3.49
教育一教員養成課程	7,280	7,317	19,345	19,181	-164	99.2%	2.66	2.62
教育一総合科学課程	841	830	2,298	2,486	+188	108.2%	2.73	3.00
理	5,088	5,240	14,614	15,433	+819	105.6%	2.87	2.95
工	22,691	22,543	69,788	68,188	-1,600	97.7%	3.08	3.02
農	5,485	5,551	15,939	16,357	+418	102.6%	2.91	2.95
医・歯・薬・保健	10,498	10,586	38,534	37,851	-683	98.2%	3.67	3.58
医	3,668	3,643	17,064	16,390	-674	96.1%	4.65	4.50
歯	447	447	1,836	1,824	-12	99.3%	4.11	4.08
薬	748	756	2,948	2,859	-89	97.0%	3.94	3.78
看護	3,835	3,936	11,260	11,256	-4	100.0%	2.94	2.86
医療技術・他	1,800	1,804	5,426	5,522	+96	101.8%	3.01	3.06
生活科学	796	818	2,793	2,711	-82	97.1%	3.51	3.31
芸術・スポーツ科学	1,571	1,582	7,526	7,495	-31	99.6%	4.79	4.74
総合・環境・情報・人間	2,345	2,397	8,423	8,399	-24	99.7%	3.59	3.50
国公立計	79,994	80,189	257,863	258,535	+672	100.3%	3.22	3.22

※河合塾調べ(19年度志願者数は、大学発表の数値と文部科学省発表の数値が異なる場合は文部科学省発表値を優先)  
※系統の分類は河合塾による

志願者が減少した。前年入試までの英語外部試験の成績を提出できない場合にセンター試験英語の得点で代替可とする経過措置が無くなったことが要因だろう。

**【医療系（医・歯・薬・保健）】**

医療系全体の志願者数は前年比 98.2%と減少した。分野別にみると、「医」では前年比 96.1%となり、前期日程では5年連続の志願者減となった。私立大を含めて医学科の人気は低調である。とりわけ前年が高倍率入試となった大学では、その反動から志願者数が大幅に減少したケースが目立った。なかでも、名古屋市立大は、前年高倍率入試だったことに加え、今春より新たに2段階選抜実施を予告していたこともあり、志願者数は前年比 31.1%と減少、志願倍率は 8.56 倍から 2.66 倍へと大幅にダウンした。「薬」は、前年比 97.0%と減少した。京都大、東北大、九州大といった難関大で志願者減少が目立った。一方、今春より4年制課程を廃止し6年制課程のみの募集となった大阪大では、志願者数は前年から1割増加した。「看護」の志願者数は前年並みとなったが、前述の公立小松大、富山県立大の影響で募集人員が増加したため、志願倍率はダウンした。富山県立大では、募集人員 62 名に対し 417 人の志願者が集まり、志願倍率は 6.73 倍と看護の中では全国で最も高倍率となった。

**【その他】**

「総合・環境・情報・人間」の志願者は前年並となった。情報分野では、前年比 101.5%と微増だが、新設の兵庫県立大（社会情報科学）を除くと志願者数は減少した。なかでも、新設2年目の横浜市立大（データサイエンス）では、前年が高倍率入試だったため警戒されたのか、志願者数が前年比 56.3%と大幅に減少、志願倍率は 7.38 倍から 4.15 倍へとダウンした。

**■難関国立大の志願状況**

【表4】は旧帝大を中心とした難関10大学の志願状況をまとめたものである。

難関10大学全体では、前期日程は 58,003 人（前年比 97.9%）と、やや減少した。大学別にみても、神戸大を除き前年並みまたは減少となった。難関10大学全体で志願者が減少したのは現行の教育課程になった2015年度入試以来、4年ぶりである。

今春のセンター試験では、英語（リスニング）、国語などの主要科目で平均点が上昇し、高得点層は増加した。それにも関わらず、難関大では志願者数が減少した。その背景として、その他の大学で

【表4】国立難関10大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	18年度	19年度	前年差	前年比	18年度	19年度	前年差	前年比
北海道	5,833	5,843	+10	100.2%	4,016	4,498	+482	112.0%
東北	5,242	4,813	-429	91.8%	1,398	1,439	+41	102.9%
東京	9,675	9,483	-192	98.0%	—	—	—	—
東京工業	4,229	4,222	-7	99.8%	469	497	+28	106.0%
一橋	2,935	2,687	-248	91.6%	1,201	1,123	-78	93.5%
名古屋	4,752	4,736	-16	99.7%	53	67	+14	126.4%
京都	7,861	7,511	-350	95.5%	372	514	+142	138.2%
大阪	7,867	7,536	-331	95.8%	—	—	—	—
神戸	5,634	5,933	+299	105.3%	4,346	4,026	-320	92.6%
九州	5,246	5,239	-7	99.9%	2,479	2,309	-170	93.1%
難関10計	59,274	58,003	-1,271	97.9%	14,334	14,473	+139	101.0%
その他大計	198,588	200,532	+1,944	101.0%	163,908	165,141	+1,233	100.8%

※文部科学省資料より  
※「その他大計」は難関10大を除いた国公立大計

は難関大と比べてセンター試験の配点比率が高い大学が多いこと、とくに公立大ではセンター試験の科目数が少ない大学が多いことが挙げられる。センター試験の平均点が上昇すれば、思い通りに得点できた受験生が増え、強気の出願動向になることが多い。しかし、今年はセンター試験のアドバンテージを活かし、合格の可能性が高い大学を選ぶ「守り」に入る傾向がうかがえた。

以下、難関10大学の状況を個別にみていく。

**【北海道大学】**

前期日程の志願者数は前年並みとなった。文系では文、教育学部など前年入試で志願者数が減少した学部で増加が目立った。なかでも文学部は前年比 144.2%と大幅に増加しており、志願者数が4百人を上回ったのは7年ぶりである。理系では前年入試の反動で志願者が減少した学部が目立つなか、水産、獣医学部では前年入

試に引き続き志願者数が増加した。医学科は、河合塾が実施した全統模試では高い人気を示していたが、志願者の集中を警戒した動きからか、前年から1割減少した。

後期日程は、理学部を除き志願者が増加した。理学部では、化学科の志願者が2割以上減少している影響が大きい。化学科は前年入試で志願者が大幅に増加しており、敬遠された様子だ。

### 【東北大学】

前期日程の志願者は前年比 91.8%と減少した。文系学部では、教育学部を除き志願者が減少した。文、法学部では、募集人員が各 20 名 A O 入試へシフトしたことで警戒された様子がうかがえる。法学部では、志願者数は減少したものの、志願倍率は上昇した。理系学部では、理、歯学部で志願者がやや増加した。理学部は3年連続で志願者が減少していたため、狙い目と感じた受験生が集まったようだ。

後期日程では、経済学部が前年入試の反動から前年比 84.8%と大幅に減少した。一方、理学部は前期日程同様に志願者が増加した。

### 【東京大学】

大学全体の志願者数は 98.0%と減少し、類別にみても文科一類を除き減少した。文科では、最難関の文科一類で前年比 106.3%と志願者が大幅に増加した。志願者増は3年連続である。センター・リサーチ時点でも、平均点上昇に伴う高得点層の増加で高い人気を示していたが、そのまま出願した受験生が多かったようだ。一方、文科二類は前年比 98.5%、文科三類は同 97.2%と減少した。

理科類では、理科三類が志願者大幅減となった前年からさらに1割減少した。医学科は全国的に志願者が減少しているが、東京大も例外ではないようだ。また、理科三類では、面接実施に時間を要するためとして今春から第1段階選抜の実施倍率を4倍から3.5倍に引き下げたことも志願者減の要因のひとつだろう。

### 【東京工業大学】

東京工業大は、今春より類別募集から学院別募集へと変更になった。前期日程は6つの学院から希望する順に3学院を選択して出願し、全学一括で選抜が行われる。

大学全体の前期日程の志願者数は前年比 99.8%と前年並みであった。学院別の志願状況をみると、最も志願者を集めたのは工学院 (1,520 人) で、次いで情報理工学院 (843 人) となった。情報理工学院では、志願倍率が 9.80 倍と他学院と比較しても群を抜いて高く、高い人気を示した。一方、志願倍率が最も低かったのは生命理工学院 (志願倍率 2.49 倍) である。

生命理工学院のみで実施する後期日程では、志願者数は前年比 106.0%と増加した。

### 【一橋大学】

前期日程の志願者数は前年比 91.6%と難関 10 大学のなかでは最も高い減少率となった。学部別にみると、商学部を除き志願者が減少した。近年、隔年現象により志願者数の増減を繰り返しており、経済、社会学部は減少年にあたる。なかでも、社会学部の志願者は前年から2割以上減少した。平均点がダウンしたセンター理科の配点比率が高い (センター試験 180 点中 100 点) ことも志願者減の要因だろう。

後期日程では、志願者数は前年比 93.5%と減少した。前年入試では、他学部の後期日程廃止により経済学部の実施になった影響で志願者が増加し難化した。この反動で敬遠された様子がみられた。

### 【名古屋大学】

前期日程の志願者数は前年並みであった。学部別にみると、志願者減の学部が目立つなか、教育、法、工学部では増加した。なかでも、教育学部は前年比 190.1%と倍増した。2年連続志願者が減少していたことに加え、入試科目変更により理系型生が受験しやすくなったことが志願者増の要因と考えられる。そのほか、理、農、情報、医学科といった理系学部では前年入試で志願者が増加した反動から敬遠された様子がみられた。新設3年目となる情報学部では、学部全体の志願者数は 95.4%と減少したが、学科別にみると前年志願者が減少した人間・社会情報で志願者が 134.2%と大幅に増加。志願倍率は 3.70 倍から 4.97 倍へとアップした。一方、前年志願者が増加した2学科はその反動から大幅に減少した。

医学部医学科のみで実施される後期日程は、前年比 126.4%と増加した。前年入試では出願要件が愛知県内出身者に限定され志願者が減少したが、今春は一昨年志願者数を上回った。今春から第1段階選抜の基準を前年までの「センター得点かつ8倍」から「センター得点のみ」に変更したことも志願者増の要因だろう。

## 【京都大学】

前期日程の志願者数は、前年比 95.5%と減少した。文系学部では、法、経済学部で志願者が減少した一方、文、教育学部では増加した。文学部は3年連続で増加しており、高い人気を示している。理系学部では、理、農学部で志願者が増加した。理学部では3年ぶりに志願者が8百人を上回った。一方、工学部では前年から269人減（前年比 90.1%）となり、全学科で減少した。学科別にみると、情報、電気電子工学科を除き1割以上減少し、なかでも地球工、工業化学科では志願倍率が1倍台となった。総合人間学部でも文系、理系ともに志願者数は減少した。とくに理系は前年比 88.5%と減少率が高い。理系は、総合評価に利用するセンター教科が地公のみであり、地理Bをはじめ平均点の下がった科目が多いことが要因だろう。なお、理系では2段階選抜は実施されなかった。

後期日程で実施される法学部特色入試では、特色入試が始まって以来最多となる514人の志願者が集まった。

## 【大阪大学】

前期日程の志願者数は前年比 95.8%と減少した。文系学部では、文、外国語学部で志願者が減少した。外国語学部は前年入試で大幅に志願者が増加し、一部の言語では2段階選抜が実施されたため、受験生が敬遠したようだ。一方、前年が低倍率入試となった法学部では、その反動からか志願者が増加し、志願倍率は1.98倍から2.54倍へとアップした。

理系学部では、理、基礎工、薬学部で前年に引き続き志願者が増加した。一方、工学部では前年から4百人以上減少した。配点比率の高いセンター国語の平均点の上昇に加え、前年入試で志願者が減少するなど増加要因を抱えていたが、推薦入試の拡大に伴い募集人員が30名減少したことで警戒されたのか、志願者増には至らなかった。また、工学部では今春から、センター得点を基準点のみに用い、個別試験の得点で合否判定を行う「B配点」を廃止した影響もあるだろう。

## 【神戸大学】

前期日程の志願者数は105.3%と、難関10大学のグループ内では唯一増加した。他の難関大と比べてセンター試験の配点比率が高い学部・学科が多く、センター試験の平均点が上昇した今春入試では、積極的に出願できた受験生が多かったと考えられる。文系学部では、経済学部で前年から3割以上増加し、4年連続の志願者増となった。理系学部では、すべての学部で志願者が増加した。なかでも海事科学部は前年比114.6%と増加率が高いが、前年入試の反動によるもので、今春の志願者数は2017年度入試並みに戻った形である。また、医学部は105.6%と増加しているが、医学科ではやや減少し、保健学科で増加した。保健一作業療法学は、前年入試の反動から志願者が倍増し、志願倍率は1.92倍から3.47倍へとアップした。

後期日程の志願者数は92.6%と減少した。学部別にみると、文、法学部を除き軒並み減少し、前期日程とは対照的な動向であった。

## 【九州大学】

前期日程の志願者数は前年並みとなった。学部別にみると、教育、理、農、医、歯学部などでは志願者が増加した一方、前年入試の反動により法、薬学部では志願者が減少した。新設2年目となる共創学部では、前年比103.0%と若干ではあるが前年を上回る志願者が集まった。医学科の志願者数は前年比109.2%と、3年続いた志願者減から増加に転じた。医学科では、今春よりセンター理科の指定科目を変更した。センター生物が必須から物理、化学との選択になり受験しやすくなったことで志願者が集まった。

後期日程では、志願者が減少した学部が目立った。なかでも、農学部の志願者は前年入試の反動により前年比45.5%と大幅に減少、一昨年の志願者数を下回った。

大学別の国公立大の出願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net (※) にて閲覧が可能となっているのでご利用いただきたい。

※Kei-Net 国公立大出願状況：<https://www.keinet.ne.jp/shutsugan/>